

第4回大津市庁舎整備基本構想策定懇話会議事録（要旨）

日時：令和4年10月7日（金）

10：30～11：30

場所：WEB会議

1 開会

構成員6名出席（1名欠席）

2 座長あいさつ

3 懇話会の公開及び傍聴について

原則公開（異議なし）

傍聴人入場（22名）

4 議題

（1）庁舎整備基本構想の策定について

① 庁舎整備基本構想の素案について

② アンケート結果調査報告書について

○座長

今回は、市から基本構想の素案と市民アンケート調査結果の報告がある。

基本構想の素案については、前回の報告から大きな方針の変更はないとのことだが、これまでの検討を踏まえて、庁舎整備に求める基本理念における「具体的な取組」が整理されたので、そのことについて協議を行う。また、アンケートの調査結果についての報告があるので、その結果を踏まえて、今後、基本計画や庁舎整備の検討に向けて、意見を伺いたい。

■① 庁舎整備基本構想の素案について

資料により事務局説明

<意見等>

○座長

前回から2つの候補地を出して、皇子山総合運動公園内と、大津駅県庁周辺の案が提示された。意見等あればよろしく願います。

○構成員

前回から多少は変更になっているが、ある程度網羅されていて、今後の方針が見えている基本構想であると思う。

敷地が確定していない段階での基本構想ということである意味、具体化する上で、どうしても難し

いところが多々あるかと思う。

敷地の選定から都市計画、或いはまちづくりのあり方とともに、この基本構想そのものも、より具体化に向けて繋げていただければと思う。例えば防災拠点としての整備のところは、大津駅前だとかなかなか厳しいところもあるので、分散型のまちづくりの中で防災拠点というより防災まちづくりみたいな、そういった話になると思うが、それぞれの敷地の持つ特性と、より具体性のある将来像が重要になるかと思う。

○構成員

20 ページ、都市行政サービスネットワーク拠点としての庁舎という点が述べられていた。下側の前段のところで、行政サービスのデジタル化が入っていて、この辺は推進する必要があると思うが、文書の作り方として①のところで、この具体的な項目として行政サービスのデジタル化というのが明示的に、イやウの辺りに具体的に入っている方が目標としてわかりやすい。

自治体DXの推進と、18 ページで謳われている、市民サービスの向上に繋がる庁舎を考えると、お互いに相反するようなところがある。例えば、完全にオンライン化されてしまうと、庁舎に行く必要がなくて、庁舎の窓口は必要なくなるし、オンライン化が行われないと窓口をかなり大規模に取って整理して提供しないといけないこともある。その両極端というのはありえなくて、真ん中の良いところのバランスを探していかないといけない。市役所において対面で行うサービスと、支所において対面で行うサービスと、自宅等からオンラインで利用できるようなサービスと、例えば支所に個室ブースがあって、本庁と個別にオンラインで対話ができるようなサービスとか、どういう業務をどういう仕組みでやっていくかというところを、これから整理していくといい。

○構成員

アンケート調査でも「必ず市役所でないとできない業務のために来た」というような回答もあったので、このあたりオンラインでできることと、そうでないことを上手く切り分けつつ、今後検討していくということ。

○構成員

基本方針は非常によくまとまっていると思うが、大津駅前の敷地と、皇子山総合運動公園の敷地では大分条件が違うので、どちらにするかによって、書き方が変わってくる。2つに共通することとして、周辺まちづくりの観点から言うと、両方駅前とか駅近ということになる。周辺まちづくりのところにアクセスの良さというのも、市民アンケートでは言われていたが、ヨーロッパだと市役所前には必ずオープンスペースがあって、駅前には交通の駅前広場ではなく市民が集まれるような、オープンスペースを一体的に整備するとか、駅前空間との関係性をどのように考えるかというのは、2つの敷地に共通しているところがあるので、駅前からのアプローチとか、皇子山総合運動公園だと、駅と直結するアクセスを作ってもいい。明日都浜大津は、駅から直結のアクセスがあって非常に便利が良いと思う。下まで降りないで、そのまま上のレベルで行けるのは福祉的にも良い作り方なので、そのようなことも想像できる。

21 ページの防災意識の向上を図るためで、平時からの防災に関する情報発信も大事だが、一方、避難所が小学校というのは、よくあると思うが、引っ越してきた方とか、そこで育っていない方にとって小学校は、親しみのある場所ではなく、むしろ普段行くところとか、近しい場所の方が親しみを持って避難しやすくなるということがある。市役所が住んでから1度も行ったことがないとか、普段から行かないところではなくて、普段から行きたいとか、少し使えるサービスが市役所の中に入っていると、市役所に行くのではないけれども、別のサービスを受けに行ったら、そこに市役所があってというような、そういう親しみのあり方もあると思うので、平時から市役所に行くのではないが、市役所を身近に感じられるようなあり方を検討するといいと思う。

○構成員

目的が市役所だけではないというのは非常に重要な点だと思うので、近くに運動公園がある場所が候補地としてあるので、周辺環境を上手く利用したような、庁舎周辺のまちづくりを考えていただきたい。

○構成員

新庁舎の整備にあたり、従来の様々な手続きのデジタル化や業務の効率化、防災拠点としての機能の向上等がまず基本として重要であり、そういった意味では網羅されている基本構想になっていると思う。

一方で、アンケートの自由回答には、新しい庁舎と市民との協働や関係性の構築、従来の庁舎にプラスアルファの機能を設ける（例えば、住みやすさ、イメージ向上、賑わい等の周辺環境と一体となった楽しい空間を作って欲しい）という面白い意見が出てきている。市民が親しみやすく利用しやすい庁舎の2つ目、市民に開かれ、市民に親しまれる庁舎のところは、これしか書きようがないというように思う一方、シンプルにしか書かれていないので、このあたり引き続き、基本計画に向けた調査やワークショップで充実していくといいと思う。

○構成員

平時と防災との連携にも関わることだと思う。普段から用事がないと行かないというわけではないような、ふらっと訪れることができるようなところに庁舎があるというような形が望ましいということか。

○構成員

17 ページの具体的な取り組み、18 ページ以降にかなり網羅的に書かれているので、かなり充実した内容と思っている。

22 ページの「環境に配慮した」のところで、①アで大津市の地勢気候風土を生かした自然エネルギーの積極的利用というのがある。例えば名古屋市であれば、町全体を冷やしていくとの動きがあったりとか、そういうような具体的なことが考えられたりすることがあるが、庁舎の基本構想として、市庁舎の設計で自然エネルギーを活用するというのは、具体的なところは難しいと感じる。

一方、この基本構想が市庁舎整備の基本構想というよりは、大津市全体の町とか都市の作り方の基本構想という位置付けぐらいに広げて考えていくと、やはりこの文言はあった方がいいだろうと思う。庁舎の基本構想に留まらない、もう少し大きな枠組みも同時に並行して考えていけると、支所との連携ということも含めて、単に市庁舎の新築に留まらないところで面白いものになっていくと感じた。

○構成員

概ね良い評価をしていただいているので、網羅的に出来ているという判断かと思う。

○座長

追加の意見もないようなので、2つ目の市民アンケートの調査結果について、事務局の説明を求める。

■② アンケート結果調査報告書について

資料により事務局説明

○座長

調査結果を踏まえて、今後具体的に基本計画を作っていけないといけないので、それに向けた意見を伺いたい。

○構成員

新しい庁舎整備に向けた意見ということで非常に貴重な意見が聞けていると思う。一方で新庁舎が竣工するのは、10 年後が現実的なスパンではないかと思うので、現庁舎への意見でも非常に重要な意見ではないかと思っている。現庁舎をどうやって改善して活かしていくのか。そういったところに向けても、意見は活用すべき。市の方からサイン計画の見直しなどにも活かしているということも聞いたので、そういったところで活用を考えていただきたい。

もう1つ、現庁舎が交通のアクセスという意味でいうと、自動車交通が中心になっているということだったが、駅前開発の話でもあったように、公共交通機関をいかに誘導していくか、整備していくか、それと庁舎整備に繋げていくかということも、大きな話かと思うので、こういった意見ではあるが、公共交通整備に向けた取り組みにも、ぜひ活かしていただければと思う。

○構成員

このアンケートの結果は、とても具体的で市民の声がよく酌み取られているのではないと思う。基本構想案でいくと、スケジュール的には、完成するのは約8年後とか、10年近くかかるが、そうすると1つはデジタル革新がこの10年後を読み込みながらやるというのは非常に大変で、コロナのこともあって、ここ2、3年でものすごく進んだわけだが、そういうことも踏まえて、デジタルの進歩は、ものすごいスピード感を持って進歩するので、デジタルの先生方の意見も取り入れて、その辺りも含めて考えた方がいいのではないか。支所で済むことも増えるし、デジタルでできることが増えると今ですら、ほとんど来ることがないとか、年1回しか来ないという方が多いのに対して、市役所の役割とか市役所の機能とは何なのか、市役所はどうあるべきなのかということをお津だけではなくて全国で課題になってくることだと思う。その時にデジタルで便利になった一方、来てみたらアナログでいろいろな部署を回らなければいけないという、デジタルの便利さと、来庁したときのアナログの不便さのギャップが大きくなってしまうので、1つの窓口で用件が済むような、引っ越しセットとか、学生さんの新入生セットとか、何かそういうサービスとか、そういうものを一時的に作る、子育て関係だったら、ここの部署に行けば全部済むとかというような、現状の市役所の役割を見直しながら、コンパクト化を図るというのがいいのではないか。

○構成員

アンケートを見ていると、市役所に行ってしまうが、本当は支所でも十分間に合うということが大半である。すでにDXは最低限のものは、十分整っているということかと思う。

やはり本庁舎に行ってしまうということなので、いざ災害が起きた時は、避難所になりやすいのは最寄りの支所や小学校ということになると思うので、普段使いして、支所を知っておくことが、いざ災害が起きた時には重要なことかと思う。支所をもう少し活用する誘導が必要だと思う。庁舎を建てる、建てない関係なく、今からでもできる取り組みなので、基本構想は、庁舎だけとどまらない、もう少し大きく広げて捉えた方がいい。災害グッズは普段使いしているからこそ、いざという時に役に立つ。そういうのは、フェーズフリーデザインと言われているようだが、そういうような使い方として支所が活用されるような取り組みを並行していけるといいと、このアンケートで感じた。

○構成員

この先には支所の整備ということも含まれるのかもしれないが、災害時には平時と非常時のシームレスな繋がりは重要になってくるので、その辺りの対応も基本計画を立てていく上では考えていかなければならない。

○構成員

デジタル化については、庁舎の完成を待たず、これからもどんどん推進していくことになるかと思う。いろいろなデジタル化の進み具合も見つつ、新しい庁舎ができた時の窓口サービスとか、市民サービスをどうしていくのかということとを並行して考えていかなければいけない。

アンケートの結果を見ると、デジタルサービスの利用率は、まだまだ低いということなので、これをどう上げていくかということが1つポイントになるかと思う。

例えば、市民に身近なサービスで、大型ごみの回収は、どこの家でも起こることで、それが今、ラインのお友達登録をするとできるようになっている。身近なところからできるだけデジタル化サービスを広めていくような、何か取り組みをして、さらにそこを窓口にして情報発信を進めていって、いろいろなことが実はデジタルでできるようになっているということが広まっていくと、どんどんデジタル化率が上がっていくことにも繋がっていくと感じている。

その時にはどういうインセンティブを働かせるかということで、難しいところもあるが、マイナンバーカードは、マイナポイントを付けてということをやっているが、例えば友達登録をした時の特

典みたいなものを用意するとか、そういう工夫もしながら、市民の方が行政のデジタルサービスを利用する割合を増やしていく取り組みをまずは始めていきつつ、新しい庁舎のことも考えていくということが必要だと思う。

○構成員

アンケートの結果としては、庁舎に行かなくてもできるサービスが増えてきた一方で、庁舎に来ていただきたいということもあるので、目的が将来的には変わってくる。今までは行政サービスを受けるために市役所に行っていたけれども、市役所に休憩に行くとかそういう目的に将来的には変わってきて、市民として身近な市庁舎になっていくといいと感じた。

○構成員

市庁舎が整備される 10 年後には、デジタル化の流れも大きく進展しているという話を聞きながら、1 つ思ったのが、今回の懇話会では現在の市庁舎やサービスの課題の改善がメインであったが、まちづくりや地域の課題解決の 1 つの場としての支所や庁舎という点も考慮した方が良いのではないかな。今の庁舎が抱える課題だけではなく、大津市全体や各地区の課題も加味しながら検討していく必要があるのではないかな。

○構成員

10 年スパンで考えていかなければいけないようなことなので、約 10 年間の間に技術革新もあるだろうし、考えられなかったような災害、コロナというような災害級の事故も起こる可能性もあるので、意見やアンケートを踏まえて、基本計画を立てていただくが、突発的なことに対して柔軟に変更できるような形で見直しも入れていけるような体制にしていきたい。

○座長

全体を通して意見、質問等ありますか。

○構成員

先ほどから何度か D X であったり、コンパクトであったりというような、話も出てきたが、他の地方自治体は、庁舎整備が合併特例債を利用して結構進んでいる。大津市が新しい庁舎整備を進めたら、どういう形が出てくるのだろうかという、滋賀県で最大の大津市が庁舎整備をする。滋賀県の他の自治体が進んでいった後に満を持して登場するということに皆が期待をすると思う。

一方で、D X の推進、或いは支所のネットワークということで、庁舎に求められる機能をかなり厳選してもいいので、いかにコンパクトにしていくのかというのが、これからのカーボンニュートラルの社会を実現するという中で、非常に重要な形ではないかなと思う。基本構想の中で 3 万 5,000 平米という数字もあったと思うが、そういうところに果敢に挑んで、新しい庁舎像を作っていただくということを、皆が非常に期待している。

○座長

他に意見等ないでしょうか。それでは、意見もないようなので本日の議題はすべて終了する。

この懇話会は庁舎整備基本構想の策定を目的に令和 3 年度から計 4 回開催した。その間いろいろな意見をいただいて、その結果を基本構想に反映していくとともに、今後の基本計画、或いは庁舎整備へ繋がる議論が行われたと考えている。

5. その他（会議終了）

- ・ 傍聴者退場

6. 閉会

総務部長挨拶